

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792000370		
法人名	医療法人 弘善会		
事業所名	グループホーム あろんていあ住吉		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市住吉区南住吉1-4-34		
自己評価作成日	令和5年2月28日	評価結果市町村受理日	令和5年5月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が病院の為、24時間医療機関との連携は充実しています。認知症になっても安心して自分らしく暮らしていける様に支援を行っています。設備には特殊浴槽も設置し、最後まで看取りまでの支援を医療と連携して行っていきます。また、認知症ケアについても認知症実践者研修指導者・リーダー研修受講者を中心としてケア在り方を共有していき、入居者様の暮らしの支援を行っています。

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JigvosvcCd=2792000370-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)
訪問調査日	令和5年3月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

4階建てビル2~4階、3ユニットのグループホームは駅近で、1階には同法人の小規模多機能の事業所を備えています。母体が医療法人であるため、訪問診療や訪問看護が手厚く、他施設とも連携が図れています。今年度、異動により新たな管理者を迎え、来年度に向けて独自の理念の策定に着手しています。自由度の高い、一人ひとりの思いに沿った支援に取り組むホームは、法人の理念を基に、これまでの生活をできるだけ継続して暮らせる支援と、地域密着型サービスとしての使命を念頭に、新たな価値観を表せるような理念をと考えています。法人では新任研修に新たにOJT(日常業務中での指導)を取り入れました。指導する側のスキルアップややりがいにも繋がり、今年度の離職者はなく、委員会活動も活発に行っています。コロナ禍後には地域や家族との交流を深め、外出の機会も増えて、更なる発展が期待されます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「コミュニケーションを大切に。笑顔ある自分らしい生活を護る」 コロナ禍の中で、人と人との繋がり的重要性を認識できた。来年度に向け、「繋がる」を今出来る事に具体化していく方向性となった	法人全体の理念が策定されています。昨年の外部評価後、目標達成計画に挙げて独自の理念作成に取り組みました。法人の理念を基に、地域密着型の特徴を活かした支援ができるよう、管理者が中心となり職員の思いも盛り込み、来年度には開示される予定です。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中、地域行事には参加できなかったが、地域の方々への挨拶は重要視しながら行っている	地域住民の一員として自治会に加入しています。コロナ禍の影響で地域の行事には現在参加できていませんが、近隣の住民とは顔なじみで、挨拶をしたり言葉を交わす関係は続いています。1階の敷地でパンの移動販売を開催する計画があります。徐々に活動を再開し、地域交流に取り組んでいく予定です。以前地域のバス旅行に、利用者と職員が一緒に参加し楽しんだ事例があり、機会があれば今後も参加したいと思っています。近くの小学校との交流も考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の中、地域の問題や声を吸い上げる事が難しくなった。今後、地域の課題や地域で住まれている高齢者様等の今の状態で私達が支援できる事は何か模索中である	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行うが、ファクス等の書面でのやり取りとなってしまった	コロナ禍で対面での開催は出来ていません。2か月に1回、施設の取り組みや課題などを、FAX・郵送、持参して報告しています。返信用の書類を同封し、双方向のやり取りが出来るように努めています。返信の回答には、施設の業務改善への取り組みに対する評価や助言、地域のイベント予定等が書かれています。議事録は職員が自由に閲覧出来るよう1階に置いています。	今年度は書面での会議が殆どでしたが、今後は対面で開催できる様に期待します。また運営推進委員より返信された意見への返答が明確ではありません。意見に対する回答を議事録に残し、書面でも一連の流れとして繋がりが分かるようすることが望まれます。

己 自部 外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事や書類などで困った事、生活保護など、相談しながら協力関係を築けるように努力している	市の担当者とは日頃から書類について相談したり、生活保護受給者の入居を依頼をされるなど協力関係を築いています。運営推進会議を通し、地域包括支援センター職員より助言を受けています。市が主催する認知症ケアの研修には、リモートで参加しました。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関からエレベーターの動線が職員から目が届きにくい構造になっており、安全面を配慮して玄関・エレベーターにはロックがかかっている。外に出たい希望があれば、散歩やユニット間の交流を行い、気分転換を図っている	身体拘束廃止に関する指針を定め、高齢者の権利擁護や虐待、身体拘束に関する研修や勉強会を定期的実施しています。身体拘束委員会では3か月毎に開催しています。現在4点柵使用のケースが一例ありますが、委員会でも廃止に向けて話し合いを重ね検討しています。	話し合いを重ねることで、今後の指標となることを期待します。
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や会議で虐待について周知し、スタッフの言動が虐待に当たらないか、話し合い虐待防止に努めている。 各階には、コンプライアンスルールを掲示		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者様もいらっしゃるの、情報を定期的にお伝えしながら、円滑に活用できるように支援している		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書や契約書にそって説明を行い、ご理解を頂いた上で契約を行っている。疑問点などあれば、随時説明を行っている		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の中で、面会は中止となった。随時、電話等で入居者様の状態、また3ヶ月に一度は手紙で入居者様の様子をお伝え出来ている	面会はコロナ禍で出来ない状態ですが、利用者の状態を適宜電話で連絡したり、3か月に一回は手紙で伝えるなどして、家族の意見や要望が引き出せる様努めています。職員が発信している写真や動画のネットサービス“インスタグラム”は家族に好評で、様子が見れて嬉しいなどの意見が寄せられています。	

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は随時、スタッフの意見や提案に耳を傾けて、運営や環境に反映できるように努めている	各ユニット会議は3カ月に1回実施しています。管理者は年2回個別面談を行い、職員の要望や意見を聞く場を設けています。日頃よりコミュニケーションを図るよう心掛け、表情や勤務態度がいつもと違うと感じたときは声を掛け、話を聴いています。職員からの提案で、業者によるミキサー食の利用に繋がったり、介護ロボットの導入などの案が出され検討しています。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標シートを設定し、個人の評価を行い給与に反映できる環境を設定している。また各スタッフが個人的な負担が大きにならない様に各フロアーにてスタッフ同士の声掛けができる環境作りに努めている		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の定期的な研修を行い、知識・情報を共有する様に努めている。 また、まずは行ってみるといった考えを第一とし、スタッフの自主性の向上。気付きや工夫の情報交換を行っている。新人教育(OJT)・認知症ケア実践者研修・喀痰吸引研修などに参加できた		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内での交流は行えている。他職種との交流は意見交換・グループ内での勉強会にて取り組んでいる。 認知症対応型共同生活介護同士の交流は出来ず、今後の課題と言える		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の担当者と連絡を取り合い、情報を引き続き、スタッフ間で情報を共有している。また環境面でも出来る限り、以前と暮らし方が変わらない様に努めている		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談にて家族様から生活歴や好みなども聞き、ご本人が安心して暮らしていけるような関係作りに努めている		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様との関係性も大切にしながら、入居者本位の暮らしが出来るように支援できる様に努めている		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	フロアで行う事は基本的にできる事は入居者様にも行って頂く様にしている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の中、面会は中止となったが、電話等で状況をお伝えし、今後のケアにつなげる様に努めている。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中、外出の規制を行った。今まで行っていた所へも行けなくなり、今後の課題である	コロナ禍で家族との面会や外出の機会も制限される中、携帯電話の所時や電話の取り次ぎなど、可能な限り繋がりが途切れないよう支援しています。また家族には些細なことでも利用者の状況を伝えたり、通院時には職員と一緒に同行してもらおう等、関わる機会を持てるよう努めています。誕生日に花が贈られてきたり、手紙を送ってくる家族もあります。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者1人1人得意分野が違うため、役割を分けたり、他者と気持ちよく関係をとれるように工夫している		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後、医療が必要になり当ホームとは契約終了するが、病院と経過を共有している		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	記録や毎月のモニタリングや日々の会話などから、本人の意向を読み取る様に努めている	利用者の思いや意向は日々の関わりの中での会話や表情、しぐさから把握しています。得られた情報は連絡ノートに記入し、職員間で共有しています。意思疎通の困難な利用者にはこれまでの生活習慣や家族から情報を得るようにしています。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の暮らしも個人ファイルにまとめ、スタッフがいつでも見れるように整えている		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の過ごし方を把握し、残存機能を活かした暮らしができるように努めている		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画にはフロアスタッフの意見をまとめ、また作業療法士の意見を加え、入居者の暮らしをより良く支援出来るように努めている	介護計画書は3か月に1回、もしくは必要に応じて見直しています。計画作成にあたって作成担当者は「本人がどうしたいのか」に注目し、モニタリングやカンファレンスを通じて作成しています。カンファレンスには、理学療法士や作業療法士も参加、利用者の「トイレまで歩行したい」との思いにリハビリテーションのサービスを盛り込むなど、利用者を中心に多職種がチームとなり取り組んでいます。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録として日々の生活状況や気付いたことを記録に残しており、スタッフの出勤時には目を通して把握する様にしている		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の中、外出規制等で多機能に答える環境整備が出来なかった。個々のサービスの多様化は出来ている方はまだ少ない		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中、地域との繋がりを継続する事が出来なかった		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療が中心だが、入居者様のニーズや家族の希望から近隣の医療機関を受診し、家族・かかりつけ医にも報告を行っている	母体が医療法人であるため、内科は全員が協力医の訪問診療を受けています。眼科・皮膚科・整形外科などには、家族の事情を踏まえて職員の介助で通院しています。職員は医師にホームでの様子を伝えたり指示を受けたりしています。面会機会が少ない中、家族が同行することもあります。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に気づいたことや健康状態を伝え、適切な医療が受けられるようにアドバイスを頂いている		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が病院の為、24時間対応の体制がとれている。また病院の相談員とも連携をとり、早期の退院の受け入れに努めている。また地域の病院関係者とも連絡を取り、なじみの関係性を作っている		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期は担当医から時期の見極め、話し合いの場を設けている ご家族様にも事業所で出来る事を説明し、方向性を全スタッフで共有できるように努めている	今年度、2例の看取りを行いました。看取り介護マニュアルを整備し、その都度、確認・見直しを行っています。職員は日々の状態を把握し、より良い看取り介護を検討して医師や看護師から指示を得ています。コロナ禍で入院ではできなかった面会を、ホームの配慮で看取りの面会ができて喜ばれた事例があります。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の医療への緊急連絡網は全スタッフ周知している。今年度は全スタッフに看護師から応急手当の勉強会を行った		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを掲出し、迅速な対応を心がけている。また、年2回の避難訓練実施により、具体的な行動を共有できるように努めている	今年度は、1月と3月に日中・夜間を想定した避難訓練を実施しています。職員は初期消火・誘導・通報の役割に分かれて対応することになっており、消防署からの到着が見込まれる通報後7分の間に何をするのかを検討しています。備蓄は3日分を用意し、管理者が在庫・消費期限の管理をしています。非常災害マニュアルがありますが、地震・水害時対応も追加する予定です。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36 (14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重し、信頼関係を構築できるように心がけて対応している	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない、さりげない支援を心掛けています。今年度より、法人でOJT(日常業務の中での指導)を活用した研修を取り入れました。新任職員だけでなく、教える側にも効果が現れています。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重している。すぐに対応できない事もあるが、スタッフで共有し、実現できるように努力している。自己決定が出来ない方には選択肢から決定できるように声をかけている		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	職員側のローカルルールは出来るだけ無くすように努力しているが、決め事には入居者様の意向を入れるようにしている。出来る限り入居者さまの暮らしの支援を優先できるように努力している		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身だしなみは大切にしている。また着る服を自己決定し、髪は訪問美容で希望に添う様に行っている		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者から食材が届き、ホームで調理を行っています。得意な方には調理から手伝って頂き、準備・後片付けとスタッフと一緒に頂く事を基本としています	ご飯とみそ汁はホームで調理し、副菜は3食業者のチルド食を利用しています。月1回は行事として調理の企画をし、オムライスやクリームシチュー、桜餅やホットケーキなどを一緒に調理して楽しんでいます。漬物などの家族からの差し入れは個別に管理し、臨機応変に提供しています。ドクターの指示がない限り、それぞれ好きなものを食しています。晩酌を楽しむ方もいます。コロナ禍で外食はできませんが、テイクアウトの寿司などを楽しんでいます。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは業者の栄養士が対応している。水分量は記録にも残し、ご本人の好きな飲み物も提供している		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを大切にしている。希望者は訪問歯科を利用し、義歯の調整や衛生管理を行っている		
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本として声掛け・誘導を行っている。記録にも残し、それぞれに合った支援が出来るように工夫している	現在、おむつ使用の方は2名、夜間のみ使用の方が2名います。健康管理表に排泄のチェックを細かく記録し、できるだけトイレで排泄できるよう支援しています。尿・便の回数は電子カルテで記録し、水分補給や便秘薬の処方の目安にしています。トイレは各フロアに3か所、うち1つは車いす対応で十分な広さがあります。電気のオン・オフの戸惑いがないよう、照明はつけたままにしています。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めにとって頂いたり、運動・体操などもスタッフと一緒に頂いている。またヤクルトなど希望などを聞き提供している		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は週2回としているが、希望に添えるように努力している。職員数によっては午前中も入浴対応できる為、入浴時間帯も入居者様の希望を聞いている。機械浴も設置し個人浴では難しい方にも対応している	基本週2回、午前・午後に分けて入浴の支援をしています。個浴で一人ずつ湯の張り替えをしています。好みのシャンプーなどの持ち込みや、入浴剤を効果的に使用して、楽しんで入浴できる工夫をしています。状態に合わせて、1階の小規模多機能施設の特浴での入浴も可能です。無理強いせず足浴や清拭の支援をし、むくみ防止の足浴をケアプランに挙げて取り組んだ事例があります。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じて居室で休んで頂いている。頑張りすぎて休憩が取れない方にはスタッフから声をかけ休息の時間を設けている		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	計画作成者が医療関係者と連携をとり、状況を報告している。また薬剤管理を薬局が入り、服薬の相談を随時行い、入居者様にあった服薬方法を支援している		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	暮らしの中での役割を個人的に持って頂き、充実を感じて頂けるように支援している。また、息がつかまらないように散歩やちょっと外に出ていく事を随時行っている		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナ禍の中、外出はほとんど出来なかった	コロナ禍、外出の支援は困難ですが、徐々に散歩の再開から進めています。近くのコンビニへの買い物や、玄関先での外気浴もしています。園芸クラブでは花の苗を植えて水やりをしたり、夏にはベランダで簡易プールに足を浸けてアイスを食べるなど季節に応じた、閉塞感を感じさせない支援をしました。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様が個人的にお金を持ってはいないが、事務所にて預り金として保管している。預り金は個人の好きな物や必要な物を提供している		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身の携帯で家族様と連絡を取られている方もいます。その他の方は希望があれば、スタッフが施設の電話から連絡をとり、本人に代わる事もあります		
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のリビングで過ごす事が多く、音や匂い・光など過度な刺激がない様に心がけている。また、廊下や居室には四季が感じられるように飾りをつけている	リビング・ダイニングは全体が見渡せ、アイランドキッチンからは調理の香りが感じられます。テレビの音量に配慮し、食事中はオルゴールの曲を流しています。廊下の突き当りにテーブルとソファを配し、個々に寛げるスペースを設えました。屋外を眺めながら、思い思いの時間を過ごしています。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の場所・ゆっくりできる場所を分け、入居者様が自由に自身の居場所を決めていけるように環境を整えている		
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、ご本人が使い慣れた物や家具を持ち込んで頂けるように勧めている。またご本人が使いやすいようにベッドの位置や家具の位置を家族様とも相談をあげて配置を考えている	ベッド・クローゼット・エアコンなどが備え付けられています。本人・家族とも相談して、テレビやダンス、テーブル・椅子などの持ち込みがあります。床の生活をしていた方にはカーペットを敷いて胡坐(あぐら)がかけられるようにしたり、ベッドを好みの向きに配置したりして、それぞれに寛げる工夫をしています。しゃべる人形を持ち込んで、なごみの時間を過ごしている利用者もいます。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には大きな手作りの表札をつけ、判断できるように工夫している		